

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号: 3 事業名: 県民コミュニティーカレッジ事業

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
諸平アドバイザー	<p>講座の参加者人数は、延べ人数か。</p> <p>参加者人数が少ないように感じる。</p> <p>多くの講座があり、学習機会に恵まれていることは分かるが、多くの人に参加してもらえる仕組みについてどう考えているか。</p> <p>努力は理解できるが、先程説明があった活動量が102%という評価や、意図した成果をほぼ上げているという評価については、評価の仕方が違うと感じた。</p>	課長・深澤 宏幸	<p>延べ人数である。</p> <p>参加者が伸びていないのが現状かもしれないが、大学コンソーシアムと連携を図る中で、興味がわくような講座を考える努力はしている。今後は、さらに興味深い講座を大学に求めていく必要があると考えている。</p>
五味アドバイザー	<p>経費の内容として、賃金と報償費はどなたに支払われるのか。</p> <p>当事業は趣味的な講座内容が多いように思うが、こうした講座を無料で受けることと、各大学で行っている地域住民や社会人向けの講座を有料で受けることとの待遇の違いについてどのよう</p>	課長・深澤 宏幸	<p>賃金は、講座を開くにあたり、準備段階に関わる職員やアルバイトに支払っている。報償費は、講師、コーディネーターへの謝金である。</p> <p>大学の公開講座には無料の講座と有料の講座があり、講座の内容については、当事業の内容と大きな違いはないと考えている。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
<p>五味アドバイザー</p> <p>小口アドバイザー</p>	<p>に考えるか。</p> <p>講座に参加する方は、自ら募集に応募しているので、アンテナの張り方など、努力があることは確かであるが、限られた方達に利益が与えられていると感じる。限られた予算の中で行うことであるため、各自に応分の負担を求めることを考えなければいけないと感じた。</p> <p>当事業は高度なテーマを取り上げるということで始まった事業だと思うが、高度なテーマでない一般的な講座が多く、また、一般の大学の公開講座とそれほど差がないことから、なぜ当事業だけ無料で行う必要があるのか、という印象を持っている。</p> <p>また、大学コンソーシアムで行う意義について。コンソーシアムは大学間の連携という意味だと思うが、各大学がそれぞれのテーマを考えて講座を行う中で、連携というものはどのような形で講座に反映されているのか。</p>	<p>課長・深澤 宏幸</p>	<p>広域ベース講座については、講座のテーマを設定する際に、各大学で集まり、どのようなテーマが良いか検討を行った上でテーマを設定し、大学間の連携のもと講座を開催している。</p> <p>地域ベース講座は、教員の研究内容や大学が進めていることなど、各大学の専門性を活かした講座を開催している。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>本来、高度なテーマを取り上げるとすると、非常に受講生に限られると思う。先程の話から、一生懸命PRして人を集めるという動きと、高度なテーマを扱うという動きがちょっと違ってくるような気がする。</p> <p>高度なテーマを取り上げるのであれば、その大学が持っている知識を限られた人に伝えていくというのが本来の姿である。今はなかなか人が集まらないので、一般受けするようなテーマをやらざるを得ないということになると、本来の高度な教育をする、という趣旨からはずれてくるため、そういう意味で見直しが必要ではないかと考える。</p> <p>また、高度なテーマを限られた人のために行うとなると、無料にする必要があるのか。ごく一部の専門的な知識を得たい人は、それなりの負担をする、と考えるのが一般的である。</p> <p>もともとこの大学コンソーシアムで講座をやることになったきっかけは、何か。</p> <p>各大学でテーマを決めているようだが、各大学で行っている公開講座と当事業の講座とで差を付けているのか。</p>	課長・深澤 宏幸	<p>当事業は、もともと県の委託事業として始まった。平成16年度の包括外部監査において、「事業を担うべき主体について検討するべきではないか」との指摘があり、検討を行った結果、委託から補助に代えて、大学コンソーシアムに任せたと、というのが経緯である。</p> <p>基本的に中身を代えてもらいたいという話はしているが、大学で行う講座の内容と重なる部分もある。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>広域ベース講座のテーマは、今は様々な所を巡る内容になっているが、最初からこのような内容で行っていたのか。</p> <p>大学コンソーシアムの会議の中で実施する内容を決めているのか。広域ベース講座は、全部の大学で実施するのではなく、実際に実施する大学は、話し合いの中で決めているのか。</p> <p>大学コンソーシアムの中心となる事業は、学生の単位互換事業になるのか。</p>	課長・深澤 宏幸	<p>最初は広域的な内容の講座を座学形式で実施していたが、大学との話し合いの中で、平成25年から、対話式の講座や参加者が主体的に参加できるワークショップ形式の講座を実施するような方向にシフトしている状況である。</p> <p>その通りである。</p> <p>大学コンソーシアムでは、高校と大学の連携事業や、単位互換事業、留学生の支援事業、文科省で進めているCOC+事業と連携した事業などを実施している。中心となる事業については把握していない。</p>